

講義ユニット名	感染症		所属科目名	全身性疾患制御学
講義ユニット 責任者	おおげ ひろき	所属	感染症科	
	大毛 宏喜			
講義ユニット コーディネーター		所属		
		メール		
授業方法	講義形式。パワーポイントを使用して、スライドを呈示しながら進める。			
概 要	感染症はウィルス、細菌、寄生虫、原虫、リケッチアなどの起炎菌が体内の各臓器に感染して発症する。日常臨床においては、臨床医が必ず遭遇する疾患であり、正しい感染症の診断、治療についての知識を修得する必要がある。 本ユニットの講義では、診療科や臓器に関係なく、感染症への理解を深めて、臨床医として必要な基本的知識を確立することを目指す。			
講義ユニットの 到達目標	敗血症の症候と診断と治療を説明できる。 市中感染症と院内（病院）感染症を説明できる。 医療器具関連感染症（血管留置カテーテル、尿道カテーテル、人工呼吸器）、術後感染症、手術部位感染症、を説明できる。 薬剤耐性 (antimicrobial resistance <AMR>)、菌交代現象・菌交代症、薬剤耐性菌（Methicillin-resistant Staphylococcus aureus <MRSA>）、バンコマイシン耐性腸球菌 (vancomycin-resistant Enterococci <VRE>)、基質特異性拡張型βラクタマーゼ (extended spectrum beta-lactamase <ESBL>) 産生Gram陰性桿菌、多剤耐性アシネトバクター属菌、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌等）を概説できる。 コロナイゼーションと感染症発症の違いを説明できる。 コンプロマイズドホストと日和見感染症を説明できる。 新興・再興感染症（中東呼吸器症候群 (Middle East respiratory syndrome <MERS>)、ジカ熱、劇症型A群レンサ球菌感染症等）、人獣共通感染症、バイオテロに関連する感染症を列挙できる。 各病原微生物、各感染臓器の診断の手がかりとなる病歴と身体所見を説明できる。 ウイルス感染症診断における抗原検査、核酸増幅検査、血清抗体検査を説明できる。 細菌感染症診断における直接塗抹、Gram染色、培養検査、抗原検査、核酸増幅検査、毒素検出検査、血清抗体検査を説明できる 真菌感染症診断における直接塗抹、培養検査、抗原検査、核酸増幅検査を説明できる。 病原微生物及び感染臓器ごとの適切な抗微生物薬を説明できる。 抗菌薬適正使用 (antimicrobial stewardship <AMS>) を説明できる。 予防接種について、適応と意義、種類とそれぞれの投与方法を説明できる。 感染症法を概説できる。 インフルエンザの症候と診断と治療を説明できる。 ヒト免疫不全ウイルス<HIV>感染症の症候と診断と治療及び感染対策を説明できる。 単純ヘルペスウイルス感染症、伝染性紅斑、手足口病、突発性発疹、咽頭結膜熱、伝染性単核(球)症を説明できる。 サイトメガロウイルス<CMV>感染症を説明できる。 ヒトT細胞白血病ウイルス (human T-cell leukemia virus type 1 <HTLV-I>) 感染症を説明できる。 黄色ブドウ球菌感染症の症候と診断と治療を説明できる。 A群β溶血性レンサ球菌感染症の症候と診断と治療を説明できる。 肺炎球菌感染症の症候と診断と治療と予防法を説明できる。 インフルエンザ(桿)菌感染症とMoraxella catarrhalis感染症を説明できる。 緑膿菌感染症の症候と診断と治療を説明できる。 大腸菌感染症の症候と診断と治療を説明できる。 Clostridium difficile感染症の症候と診断と治療を説明できる。 結核症、非結核性（非定型）抗酸菌症の症候と診断と治療及び予防法を説明できる。 マイコプラズマ感染症を説明できる。 レジオネラ感染症を説明できる。 リケッチア感染症を説明できる。 カンピロバクター、サルモネラ、リステリア感染症を説明できる。			

講義ユニットの 到達目標	ニューモシスチス肺炎の症候と診断と治療を説明できる。 主な原虫感染症（マラリア、トキソプラズマ症、アメーバ赤痢）を説明できる。 急性・慢性腎盂腎炎の病因、症候、診断と治療を説明できる。 性感染症の原因微生物を説明できる。 梅毒の症候と診断と治療を説明できる。 新型コロナウイルス感染症の症候と診断と治療を説明できる。 標準予防策、接触感染予防策を説明・実践できる。
講義日程	別紙日程表を参照のこと
出席の取り扱い	出席状況把握システムにて毎講義出席をとる。オンライン参加の出席確認方法は別途通知する。 3分の2以上の出席がない場合は本試験の受験資格を与えない。
評価項目	到達目標の達成度 （基本的理解と知識の応用）
評価法	MCQ形式にて試験を行う。 本試験における合格基準は基本的には絶対基準とするが、一定の条件を満たした時（得点率60%未満の受験者が総受験者の10%を超える場合）には相対基準を適用する。相対基準は、平均得点－(1～2)×標準偏差とする。
予習・復習への アドバイス	講義前後にスライドを確認し、必要に応じて参考書を用いて、内容の理解に努めること。
推奨参考書	【購入を推奨する参考書】 標準感染症学（医学書院） Harrison's principles of Internal Medicine ハリソン内科学（MEDSI）感染症